

# 百条委や知事不信任案を議会で主導！

私たち県議会ひょうご県民連合議員団は、「県民の生活」を第一に政策提言や具体化をはじめ、事業の適切な執行へ厳しく、そして精力的に活動しておりますが、皆さまが感じておられるように兵庫県は今、混乱、停滞しています。

3月下旬、元西播磨県民局長が報道機関等に「告発文」を送付したことに対し、知事が会見で「事実無根」「うそ八百」などと主張したことに、私たちは疑問を持ち、**強い権限をもつ県議会での文書問題調査特別委員会（百条委員会）の設置をリード**、実現にいたるなど真相究明に全力で取り組んでいます。

百条委員会において告発文書の内容に真実が存在したにもかかわらず齋藤知事は証人尋問で「真実相当性がない」、加えて「道義的責任が何かわからない」と看過できない発言をしていることから、**知事に対して辞職を通告する不信任決議案の提出をいち早く表明**し、全議員の総意で県議会に提出しました。

引き続き県政正常化に向けて一丸となって取り組んでまいります。



宝塚市選出

なるとし

## 橋本 成年

〒665-0022

宝塚市野上2丁目4-15

TEL：(0797)26-7588

FAX：(0797)26-7589

WEB:<https://hashimoto-narutoshi.com>MAIL:[hashimotonarutoshi@gmail.com](mailto:hashimotonarutoshi@gmail.com)

## 議員団のリードで知事不信任決議を全会一致で可決

9月19日の本会議で齋藤元彦兵庫県知事に対する不信任決議案をひょうご県民連合議員団をはじめとする全86人の議員で共同提出し、全会一致で可決しました。

### 知事を決めるのは知事ではなく県民

決議案に対する討論では議員団を代表して迎山志保政調会長が「齋藤知事は令和4年2月議会において貝原元知事が常日ごろ言われていた『知事の責任は県の一木一草にまでおよぶ』との一節を引用し、知事が持つべき責任感について語られました。今まさにその責任が問われているのです。知事としてこうした気持ちがわずかでも残っているのならば、この一連の問題の結果責任を自らの辞職という県民に最も分かりやすい形で取るべきです。それなのに知事は、この間、多くの県民や職員が不信感を抱く中、『県政を前に進める』とあらゆる場面で表明されました。知事にふさわしい人を決めるのは知事本人ではなく、県民です」と決断を求めました。

### 議会の解散は「百条委員会潰し」

その上で「不信任決議は、知事にNOを突きつける大変重い決断。知事は辞職か議会解散のどちらかを選択することになります。知事が議会の解散を選択をし



ても堂々と受けて立ちます。そして新議会で必ずや再度不信任を突きつけます。議員全員からの不信任決議は、県民の総意であって議会解散は議会軽視、県民軽視以外の何ものでもありません。解散で県政の空白状態が生まれ、百条委員会がなくなり、事実の究明が一旦立ち止まります。不信任決議は県政を正常化すること、安心して誇りを持って職員が働けるように組織を立て直すための県議会の責任を果たすものです。議会の解散する『大義』は信を問うことではなく『百条委員会潰し』と感じる県民もおられるでしょう」と訴えました。

### 知事を辞することこそ未来への責任

そして、「この状況を招いた知事には職を辞すことで県民の信頼や期待を裏切ったことへの責任を果たし、県政正常化に向けての真相究明に協力することで、兵庫県の未来への責任を果たすことを強く求めます」と主張しました。



# 百条委員会で文書問題の真相追究

4 産業労働常任委員会で、「告発文」に記された贈答品のコピーメーカー等を受け取ったことについて産業労働部長にただしたところ、3月下旬に返却したことを認めました。これを機に、知事のパワハラ等の疑惑の報道が拡大し、真相究明が大きくなりとなって広がりました。

5 県人事課による内部調査の結果が発表。しかし、知事部局の綱紀委員会による調査では、客観的な調査が行われておらず、疑問を感じざるを得ません。外部の第三者機関を設置し、調査を行うこと、百条委員会（文書問題調査特別委員会）設置の際には、証人喚問に協力することを、齋藤知事に対して申し入れました。

6 6月の本会議で百条委員会の設置を賛成多数で可決しました。翌日に第1回委員会を開催して以降、これまでに8回委員会を開催しています。議員団からは上野英一幹事長と竹内英明議員が参加。下表の7項目について調査しています。また、職員約9,700人を対象にアンケート調査を行い、約6,700人が解答。さまざまなパワハラ事例、贈答品を受け取っていることが記されていました。

## 元県民局長の文書に記載され百条委員会で調査する7項目

1. 五百旗頭真理事長ご逝去に至る経緯
2. 令和3年の知事選挙における県職員の事前選挙活動等
3. 次回知事選挙に向けた投票依頼
4. 知事が贈答品を受け取っていること
5. 知事の政治資金パーティー実施にかかるパーティー券の購入依頼
6. 阪神・オリックス優勝パレードにかかる信用金庫等からのキックバック
7. 知事のパワーハラスメント



百条委員会での知事に対する証人尋問

8 証人尋問を開始。パワハラ、贈答品、公益通報者保護について齋藤知事（8月30日、9月6日）、片山前副知事（9月6日）、原田産業労働部長（9月5日）ら県職員、関係者等が証人尋問に立ちました。具体の事例や声を示しつつ、パワハラ、贈答品について齋藤知事を追究するが、「業務範囲での指導」「社交儀礼の範囲内」などの主張を繰り返すばかり。公益通報者保護については、参考人招致した専門家が法的に問題があることを指摘しましたが、齋藤知事は「適切であった」と主張しました。

9 このような発言から、9月に齋藤知事に辞職を求める申し入れを他会派と行いました。申入書では、「齋藤知事は、告発文書の内容に真実が存在し、文書が『嘘八百』ではないことが明らかになったにもかかわらず、『文書に真実相当性がない』という従来からの考え方を変えることなく頑なな姿勢を取り続けている。加えて、『道義的責任が何かわからない』と看過できない発言が飛び出した。県民本位の健全な県政と職員が安心して働ける職場を一日でも早く取り戻し、新たに信任を得た知事のもとで来年度予算を編成するためには、齋藤知事の即時辞職が必要」として、県政を前に進めるため、齋藤知事が速やかに辞職することを求めました。

上野幹事長は「例え議会が解散となり、次の議会になっても百条委員会を設置し、問題点を明らかにして真相を究明する」と議員団を代表して決意を表明しました。

3年前、20年ぶりに知事が交代し、若い齋藤知事が誕生しました。是々非々を基本姿勢に新県政を支えようとしてきましたが、知事の県政の進め方、政策について、事前の議論や各分野・方面に対する配慮が欠けており、プロセスが不透明でその内容も未成熟であったことは否めません。疑問を感じていたのは事実であり、県議会の代表・一般質問等では厳しい質問を投げかけることもありました。

## 県立大無償化に対案

県政改革方針の策定を知事は、議会や県内市町等に十分な説明をせず発表し、県政改革方針・条例提案を撤回する異例の事態が発生。その後、議会との議論の積み重ねで、修正案を議決するに至りました。

県立大学授業料等無償化に反対し、修正案を提案しました。知事の無償化は県立大学2校のみで、一握りの人だけが多額の恩恵を受けることとなります。我々が提案した修正案は、高等教育費の負担軽減の第一歩として国が創設した修学支援制度に、兵庫県独自で支援の対象者を増やすものです。国公立や私立大学等へ通う学生にも恩恵が及ぶ形へ修正。県立大学だけでなく、多くの学生・若者を支援できる制度を提案し、実現に全力を尽くしています。

県庁舎再整備については、1・2号館を撤去して芝生広場にし、職員の出勤率4割によって3号館などに集約する方針を知事が示されてから、令和5年6月議会以降、代表・一般質問等の質疑において、県民サービスの低下や職員間のコミュニケーション不

## 職員4割出勤の方針撤回を要求

足、そして災害時に司令塔としての機能が発揮できない恐れがあることなど、問題点を指摘するとともに、寄せられた多くの県職員の疑問や危惧する声を伝えてきました。

多額の借金を抱えることになる分収造林事業や企業庁の地域整備事業、病院事業会計の問題をはじめ、県森林組合連合会への貸付金9億円が回収困難に陥っていることも指摘しました。

県政改革だけでなく不登校対策の強化や不妊治療助成の拡充、地域に根差した産業の活性化など議員団として求めた事業が令和6年度予算に数多く反映されました。今後とも県民主役の県政改革に取り組み、兵庫県の持続的発展につなげてまいります。



県議会の本会議で県政の問題点や課題を指摘